

令和5年度 特色ある教育実践研究校(総合的な学習の時間) 報告書 砂谷中学校

1 学校の課題

本校の生徒は、規範意識が高く授業態度は落ち着いてはいるが、競争心や挑戦しようとする気持ちが前面に表れないことが多く、全体的に家庭学習や定期テストに向けた計画的な学習が不足している。また、固定化された狭い人間関係の環境下で育った影響も考えられるが、ひ弱で自尊感情の低い生徒やコミュニケーション能力に課題のある生徒が一定数いる。これまでも「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙調査や「児童生徒学習意欲等調査」などで自己肯定感に係る調査項目で低い傾向があり、課題として捉えている。昨年度の学校評価アンケート(生徒アンケート)では、2年生の回答で学習、生活、自己有効感などの項目で達成度が低く、早急な手立てが必要である。また、「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙調査においては、地域行事の参加は全国平均と比較して高いが、地域貢献の意識では全国平均と比較して低い。このため、地域の持つ教育力に着目し、学校運営協議会の協力も得ながら、地域と学校の連携・協働の下で子どもたちを育てていく必要がある。

2 研究主題

一人一人が主体的に学ぶ総合的な学習の時間

～自己内対話と地域の方の評価をもとにした振り返りを通して～

【主題設定理由】

本校生徒の課題である自己肯定感の低さ、主体性が感じられにくいことに対して、学習活動を通して自分を見つめ、達成したことやできるようになったことを自己認識し、自信を持たせる必要がある。その手立てとして、自己内対話と外部の方からの評価の2点を重点とした。

3 取組内容

(1) 研究内容

- 本校が目指す総合的な学習の時間で育成する生徒の資質・能力について
- 単元学習指導計画案の作成、評価と子どもの見取りについて
- 自己内対話を促す振り返りシートの作成と活用方法について
- 振り返りカードの作成と活用について
- 地域の方との連携方法について
- アンケート結果の分析・成果と課題の把握

総合的な学習の時間振り返りシート→
Google スプレッドシートで作成し、生徒は
タブレットで入力する。毎時間の学習内容の
記録と自己の振り返り、新たな疑問を記述し
ていくことで、生徒が主体的に学習に取り組
めるようにした。

時間	学習内容	振り返り	疑問
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

(2) 具体的な研究活動

① 特色研究委員会

- ・ 先進校視察
6月16日 広島市立湯来中学校
1月12日 高知市立義務教育学校土佐山学舎
- ・ 研修会の計画立案
- ・ 講師や指導主事との連携、相談
- ・ 地域人材との連携、相談

② 学年会

- ・ 単元学習計画案の作成
- ・ 生徒実態調査の分析

③ 全体研修会

- 6月21日 「学校全体で行う『総合的な学習の時間』の構築に向けて」
広島市湯来中学校 教務主任 藤本 祐二 教諭
- 7月28日 「総合的な学習の時間の在り方について」
広島経済大学 胤森 裕暢 教授
- 8月6日 「主体的に学習する生徒を育てるために」
- 9月19日 「各学年の総合的な学習の時間の途中経過報告と今年度の研究内容について」
広島経済大学 胤森 裕暢 教授
- 9月28日 「総合的な学習の時間の授業づくりと評価」(研究授業を受けての協議会)

④ 教務部会

- ・ 特別活動、道徳科、各教科と「湯来町みらい計画」の関連の整理
- ・ 「きらりカード」の掲示



4 検証結果

(1) 生徒対象のアンケート（4件法）を実施

項目		6月 (肯定的回答)	2月 (肯定的回答)
総合的な学習の時間に、体験したことを通して自分自身について考えていますか。	全校	60.8%	66.0%
	1年生	61.9%	63.2%
	2年生	43.8%	52.6%
	3年生	78.6%	86.7%
総合的な学習の時間で「やってよかったな」と思ったことはありますか。	全校	60.8%	69.8%
	1年生	61.9%	57.9%
	2年生	43.8%	63.2%
	3年生	78.6%	93.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	全校	68.6%	69.8%
	1年生	71.4%	68.4%
	2年生	43.8%	57.9%
	3年生	92.9%	86.7%

自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する総合的な学習の時間では、自分自身を省察することが重要であると考え。それを検証する「総合的な学習の時間に、体験したことを通して自分自身について考えているか」の質問に対して、全学年肯定的回答の割合が高くなっている。

また、本校の目指している生徒の自己肯定感を高めるために、体験を通して自己有用感や達成感、充足感をもたせたいと考えた。その高まりを検証するための「総合的な学習の時間で『やってよかったな』と思ったことはあるか」という質問に対しては、2学年の肯定的回答の割合が大きく上昇し、全体でもわずかに増えた。さらに、自己肯定感の有無を問う質問である「自分にはよいところがあると思いますか」との問いに対しては、2学年では高まりが見られるが、1・3学年については低下した。

(2) 学校評価アンケートを実施

授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいますか。		7月 (肯定的回答)	2月 (肯定的回答)
	全校	65%	69%

研究主題にある主体的に学習する姿を検証するため、「授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいますか」という質問に対しては、7月に比べると、2月はわずかであるが肯定的回答が増えた。



5 研究成果

(1) 成果（3 取組内容との関連）

自己内対話と外部の方からの評価の2点を重点として、様々な取組を行った結果として主に以下の3点が挙げられる。

- ・ 「湯来町みらい計画」に係るカリキュラムデザイン及び小单元ごとの評価規準の作成。特色委員会を構成し、協議内容等を常に全教職員へ周知するなど本研究に組織的に取り組む校内体制を築くことができた。また、昨年度から課題として考えていた小单元ごとの評価規準の作成に着手した。
- ・ 生徒アンケートにおいて、全体で主体的な学びに係る質問について数値がわずかに上昇。課題設定を意識した授業づくりを行った結果、生徒自身が課題を自分事として捉えることができ、その課題の解決に向けて探究的に取り組んだ結果であると考えられる。
- ・ 学年によっては、有能感に係る質問や自己肯定感に係る質問、教科の有用性に係る質問等の数値が上昇。

総合的な学習の時間の活動を通して、自己を振り返りながら、「できた」という自信を持つことができた生徒が増えた結果であると考えられる。また、「地域の方からの評価」をパウチ加工し、継続して生徒の目に触れる場所へ掲示したこともあり、生徒の励みとなったと考えられる。特に2学年は職場体験学習を1人1事業所で実施したため、「きらりカード」を通して、個別に評価をいただいた影響が大きいと思われる。

(2) 課題

本年度の取組に対する主な課題は以下3点である。

- ・ 体験活動には力を注いだが、「振り返り」に注力して、時間をかけて自己内対話をさせるには至らない学年があり、評価が低かったため、「振り返り」をする際の視点をより明確にしていく必要がある。
- ・ 学年によっては、活動内容に応じた振り返りの場面を設定することが難しく、生徒の表現を促す場面が少なかったため、学校全体で「振り返り」の場面を意識する必要がある。
- ・ 生徒への評価をより効果的で充実したものとするためには、「きらりカード」の意図を、より明確に地域の方に伝える必要がある。

(3) 来年度に向けて

本年度、本研究に取り組む中で、生徒の生き生きとした表情を多く見る場面があり、手応えを感じている。また、今年度の実践を改善していこうとする課題意識を教職員全員が持つようになったことは一番の成果である。検討中ではあるが、来年度に向けた具体的な取組を以下5つ挙げる。

- ・ 学習内容、活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにする。また、振り返る際の視点を明確にして、何をどのように振り返るのかについて具体化する。
- ・ 振り返りの内容を充実させるために、学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする場面を設定する。
- ・ 地域の方々からの評価をより効果的にするための手立てを模索する。
- ・ これまでの計画を見直し、年間を通した探究課題を設定し、まとめ・表現の場の充実を図る。
- ・ 学校教育目標との関連をより明確にし、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を定める。